

アケビ科 アケビ属

アケビ (木通)

Akebia quinata (Houtt.) Decne.

自生環境

山林、神社 など

原産地

日本在来

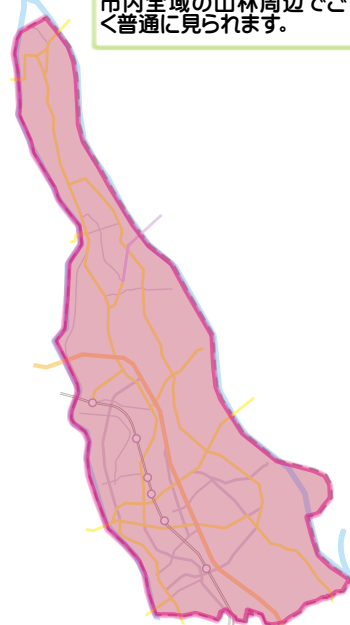
生育を脅かす要因



市内全域の山林内にごく普通に見られ、今のところ絶滅の心配はありません。ただ、山林の開発や荒廃が進んでおり、生育環境が良好とはいえない現状があります。

市内の分布状況

市内全域の山林周辺でごく普通に見られます。



特徴

☆ 山林内にごく普通に見られるつる植物です。落葉樹とされますが、葉のついた状態のまま越冬することもあります。地下茎や根をはりめぐらせ、旺盛に繁殖していきます。たくさんあるように見えても、もとは1つの株ということもあります。

☆ 春、新芽の展開とともに花を咲かせます。雌雄同株ですが、雄花と雌花があります。自家受粉では結実しないため、1つの株しかない場合は、たくさんの花が咲いても結実しません。花色はうすい紫色ですが、ときに白い花をつける株もあります。

☆ つるはとてもしなやかで強く、簡単には折れないため、かごを編んだり、リースをつくったりと工作に活用することができます。

皮も食べられるけど…

アケビの果実は、熟すと美しい紫色になり、真ん中からパカッと割れます。中の果肉は白色で、ねっとり甘く、生で美味しく食べられます。皮は捨てられがちですが、天ぷらや肉詰め、油炒めなど野菜のように使うことができます。ただ、タネは、うっかり嚙んで飲みこんでしまうと、のどがしばらくイガイガします。あまり気にしない人もいますが、タネは吐き出したほうが良いでしょう。



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

